

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「めでためでたの 大黒の舞い」

以前、当誌3月号で新潟は神社王国と書きましたが、新潟は神様がたくさんいらっしゃいます。その神様に奉納する祭事も各地に伝わっています。初夏のある日、新潟市内の神社の大祭に参加して、昔ながらの大黒様の奉納舞いに接する機会がありました。

そこで目に飛び込んできた光景は、大黒様の舞いに合わせて、手を振り、足を振り、ある時は地団太のようにも見える足運びを舞台下で熱心に模倣している某社の社長様。あの福々しい笑顔の面をつけて舞う大黒様には、めったにお目にかかれぬ貴重なものですが、背広姿で踊る社長を拝見できる機会も文字通り有難い光景です。目が釘付けになりました。

もしかして、ちょっと早いのが今年の忘年会のかくし芸の練習か？それとも、随分早いのが、来年に備えて新春のめでたい舞いを自ら実践し、社員の士気を高めようとする社長の心意気か…。本当は、社長が影の舞いの師匠かもしれない…。とあんげことこんげこと考えているうちに楽しくめでたい舞いの時間も、あっという間にこれまた文字通り御仕舞いになってしまいました。

日頃ばたばた・どかどかして、てんてこ舞いのとびすけ（あちこち騒ぎ歩く人をやや揶揄して表現する新潟の古いことば）にとって、この神社と舞台の空間は、時間がとまったかのようなどかな、まさに恵比寿顔のひとつときでした。

大黒様とくれば恵比寿様、どちらも七福神グループ（！）でめでたさの象徴です。一般的には大黒様は、打ち出の木槌を手に米俵や稲穂と一緒に描かれ五穀豊穡の象徴、対して恵比寿様は鯛と釣りざおを手にして描かれた大漁豊作の象徴とされています。もともと大黒様は、古代インドの神、恵比寿様は、日本古来の神。インドと日本が手を結び印日友好、

「恵比寿大黒福の神でコンビ結成」とは、さすが八百万（やおよろず）の国、神仏習合の国ニッポンの思想だと思います。

豊かな自然に恵まれた新潟県では、稲作に漁業にと、恵比寿大黒の信仰もすんなりと根付いていったことでしょう。

お正月飾りの縁起物の「さげ紙」と呼ばれる細工切り紙（鏡餅や神棚に飾る。県内では主に白い半紙大の紙。一説では高野山で始まり航路で伝わったとか）をみても、漁村地帯では恵比寿様や鯛の図柄、平野部・農村地帯では大黒様や鶴の図柄が主流なように県内の信仰の住み分けがおぼろげながら見えてきます。

今回目にした大黒様の舞いは、今もなお存続している社や講が少なくなったとはいえ、主に県内の五穀豊穡を祈願する大祭にみられます。

全国で、大黒の舞いと称するものが現存する地域は、秋田、山形、新潟、島根の日本海側と岩手、青森のみちのくの地。それぞれ舞いの趣等は異なるとは言え、しなやかな心で異国の文化と土着の信仰を受け入れてきた先人たちのハレの日に対する思いを感じた次第です。

陸や海から、他国の文化を地理的・心理的にも享受してきた新潟県。民俗芸能の宝庫と言われる県内でも、こうした大黒の舞いは存する地が少なく、目にする機会も限られているようです。皆さんの中でこの舞いについての情報を御存じの方、ぜひお知らせください。

